

事務事業	61	学校跡地を活用したひろばづくり					
章	2	ともに学ぶ、文化とふれあいのあるまち					
大項目	03	ふれあい、参加、協議の推進					
施策	02	コミュニティ施設の充実と利用の促進					
事業内容							
目的	地域の多様な主体により、ともに支え合い助け合う都市にふさわしいコミュニティを創出します。世代を超えた豊かな交流を育み、新たな活力を生み出します。地域住民による地域貢献活動の場としての活用を図るとともに、地域文化の発信拠点としていきます。						
対象・手段	四谷第四小学校跡地を地域のひろばとして活用していきます。ひろばづくりにあたっては、地域の方が自主的・主体的に企画・立案段階から参画し、運営するという、参加と協働によるひろばづくりのモデル事業とします。						
成果(事業が意図する成果)							
地域住民による地域貢献活動の場として活用されます。世代を超えた交流の輪が広がります。							
事業成果指標							
指標名	定義	目標水準					
運営協議会準備委員会(四谷地区協議会四谷ひろばプロジェクト)の開催	ひろばを自主管理・自主運営する運営協議会の準備委員会。開催回数	(平成19年度に (5回開催)の水準達成)					
四谷ひろば運営協議会の設立、総会・役員会の開催	ひろばを自主管理・自主運営する運営協議会。開催回数	(平成19年度に (7回開催)の水準達成)					
		()年度に ()の水準達成					
成果の達成状況							
	単位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備考	
事業成果指標	目標値1	回	0.00	6.00	6.00	5.00	
	実績1	回	0.00	6.00	6.00	5.00	
	= /	%	0.00	100.00	100.00	100.00	
	目標値2		0.00	0.00	0.00	7.00	
	実績2		0.00	0.00	0.00	9.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	128.57	
	目標値3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業の実施内容							
平成18年度	地区協議会の意見書を受けて区の活用方針を決定し、地域が自主管理・自主運営するひろばの運営協議会準備委員会を設置。開設に向けて、アンケート・地域意見交換会を行うなど、準備を進めました。また、建物の耐震診断等、施設整備に着手しました。						
平成19年度	四谷ひろば運営協議会が設立され、20年4月のオープンを決定しました。また、四谷ひろばは、用途変更許可手続き及び耐震補強等工事を完了し、四谷ひろば運営協議会及び二つのNPO法人との間で協定書・貸付契約を締結しました。						

部名称		地域文化部			課名称		四谷特別出張所	
		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考	
トータルコスト	事業費	千円	0	239	2,511	313,277		
	人件費	千円	0	4,169	4,140	4,130		
	事務費	千円	0	0	0	0		
	減価償却費等	千円	0	0	0	0		
	総計 = + + +	千円	0	4,408	6,651	317,407		
	受益者負担	千円	0	0	0	0		
	純計 = -	千円	0	4,408	6,651	317,407		
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00		
財源内訳	一般財源 = -	千円	0	4,408	6,651	317,407		
	特定財源		0	0	0	0		
	一般財源投入率 /	%	0.00	100.00	100.00	100.00		
職員	常勤職員	人	0.00	0.50	0.50	0.50		
	非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00		
事業に関する検討課題								
<p>今後の主な課題は、参加と協働によるひろばづくりのモデル事業として、安定的な運営を図ることです。区は、運営が安定的なものとなるよう、適切な助言を行なうなどの支援をしていきます。</p>								
評価基準に基づく評価と理由	達成度	3	平成19年度は、準備委員会を5回、準備委員会を経て平成19年10月設立した運営協議会を7回開催しました。四谷ひろば運営協議会は、地域により自主管理・自主運営していく方向で「四谷ひろば」を平成20年4月にオープンしました。目標は100%達成しました。					
	実施の成果	3	四谷ひろばが、学校跡地を効率的かつ有効に活用した新たなコミュニティ拠点が整備されことにより、この拠点を活用して地域に支えられた新たな交流と活力を生み出す事業展開が図られるなどの成果が読み取れます。					
	効率性	3	四谷ひろば運営協議会と2つのNPO法人との間で協定書・貸付契約を締結し、一定の貸付収入を確保したうえで、四谷ひろば運営協議会では、事業計画・予算を策定し、地域により自主管理・自主運営が進められ、学校跡地の効率的な有効活用が図られています。					
	行政の関与	3	学校跡地を効率的かつ有効に活用した四谷ひろばは運営協議会と二つのNPO法人がそれぞれ貸付契約を締結し、自主的主体的な運営しています。区は、安定的な運営がなされるよう適切な助言を行なうなど引き続き支援を行う必要があります。					
	妥当性	3	この目標設定により、地域により自主管理・自主運営していく「四谷ひろば」が平成20年4月にオープンできたことから目標設定は適切であったと考えます。					
	施策寄与度	3	地域により自主管理・自主運営していく「四谷ひろば」が平成20年4月にオープンでき、今後は、地域のコミュニティの核となって、交流の促進が図られる地域貢献の場として活用されることは、施策目的達成に大いに寄与したと言えます。					
総合評価	平成19年度の評価はAとします。10月に四谷ひろば運営協議会が設立され、地域による自主管理・自主運営で平成20年4月にオープンできたことによりです。 平成17年からの3年間で、地域のコミュニティの核となる交流の場が整備され、今後は、幅広い地域団体からボランティアを募り、大勢の方が運営に携わっていく仕組みの中で「地域住民による地域貢献の場」として活用されるなど、地域がともに支え合い助け合う、都市型コミュニティの創出や新たな交流と活力が生まれることが期待できる事業としてA評価とします。						A	
							過年度評価	
改革方針							18年度 B 17年度 B 16年度 15年度	
	参加と協働によるひろばづくりのモデル事業として、安定的な運営がなされるよう適切な助言を行なうとともに、関係部署と連携、調整を図りながら、20年度以降は、経常事業「四谷ひろばの維持管理」事業として引き続き支援を行います。						方向性 1 現状のまま継続	